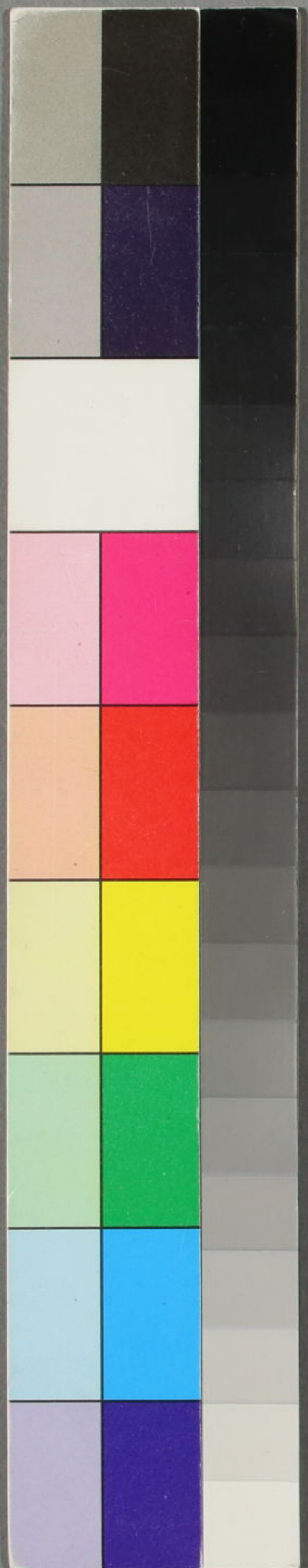


唯  
稽  
悟  
影  
法  
師

5

4432







東宮御殿大宮司 基寧  
五月八日 井宮基寧志願  
おん御殿大宮司 基寧  
五月八日 井宮基寧志願  
おん御殿大宮司 基寧  
五月八日 井宮基寧志願

関東一宮船橋御殿大宮司 基寧

昔の世なり神の言を在りし  
清代乃とてえとよきやいのしむ

東宮寛書

芭蕉翁句解序



芭蕉翁の句解序  
清代のりしとてえとよきやいのしむ  
昔の世なり神の言を在りし  
おん御殿大宮司 基寧  
五月八日 井宮基寧志願  
おん御殿大宮司 基寧  
五月八日 井宮基寧志願  
おん御殿大宮司 基寧  
五月八日 井宮基寧志願

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is written in a single column on the right page of the manuscript.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is written in a single column on the left page of the manuscript.

Small handwritten mark or characters on the left margin of the left page.

Small handwritten mark or characters on the left margin of the left page.



ふくろくろくちやふくけりしん陸奥此  
くまののふのふをたつる

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

俳諧悟影法師

鶏鳴舎陸田一貫輯  
小篋菴確嶺校合

目錄

- 一 俳諧起原傳
- 一 松尾芭蕉傳
- 一 發句姿見鏡傳 並知息自得傳
- 一 俳諧虛實傳
- 一 蕉翁句解傳
- 一 發句三鳥傳

一 發句三本傳

一 切字結字傳

一 發句變格傳

一 同天仁遠波傳

一 俳諧玄心傳

一 俳諧源流傳

一 目錄

俳諧源流傳

小葉書...  
續出合野田一...

俳諧起原

陽神

喜哉

遇可美

少女

夸

陰神

喜哉

遇可美

少男

夸

是俳諧

之此

二歌

遠東

天

三十六字也

陰陽合

須留

則波

五行

其中

仁會

天殘

留所

大哉

俳諧者

乾坤分

レテ

五形

ヲ顯

ハシ

合之

御詞

ヨリ

日本

之風

俗成

國ヲ

心ヲ

直ス

攻ノ

道也

雖然

ト元

是心

善惡

ヲ讓

假ニ

モ疎

ニ不

可仕

能其

ヲ辨

フベシ

仍テ

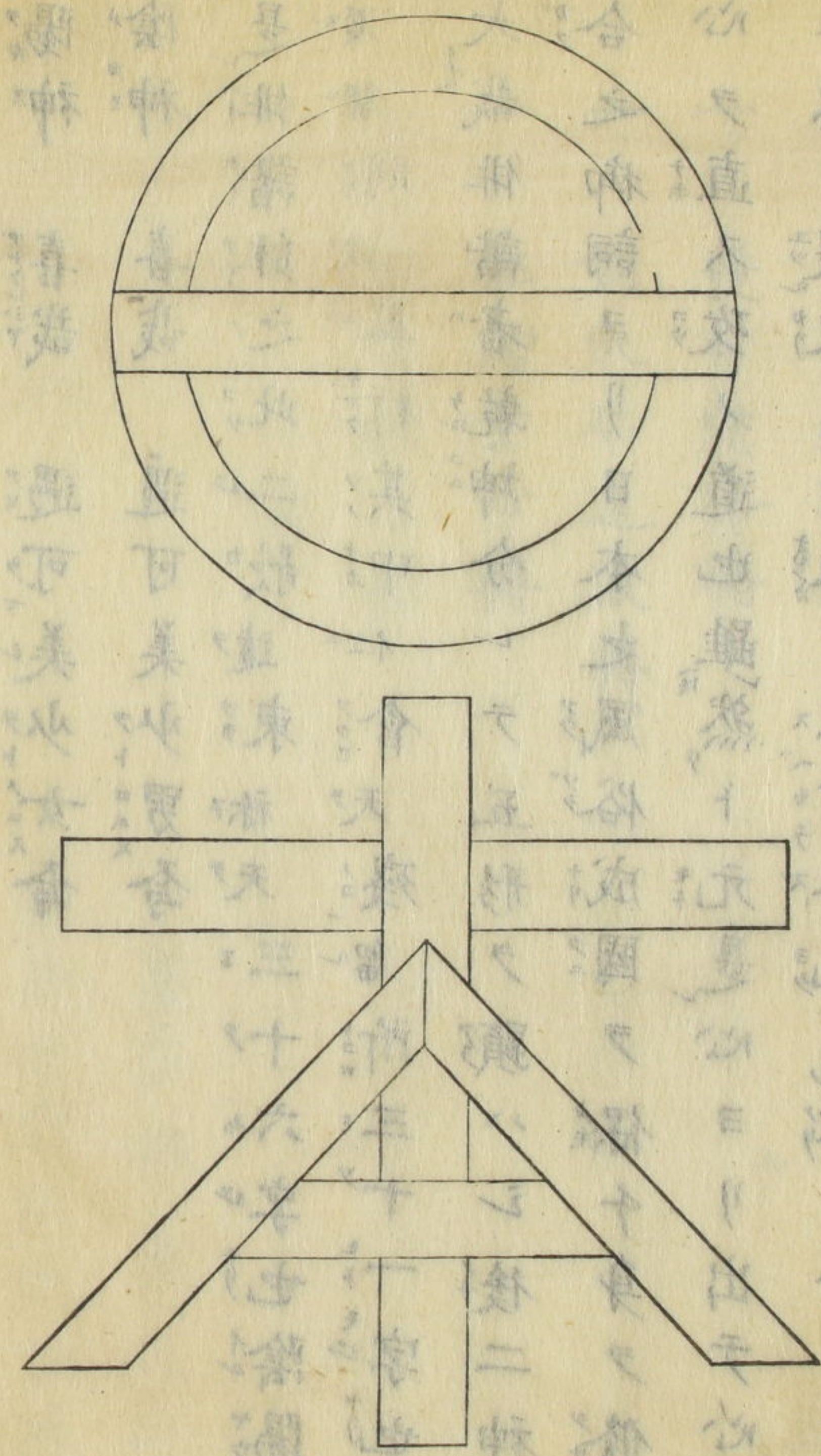
圖ヲ

見テ

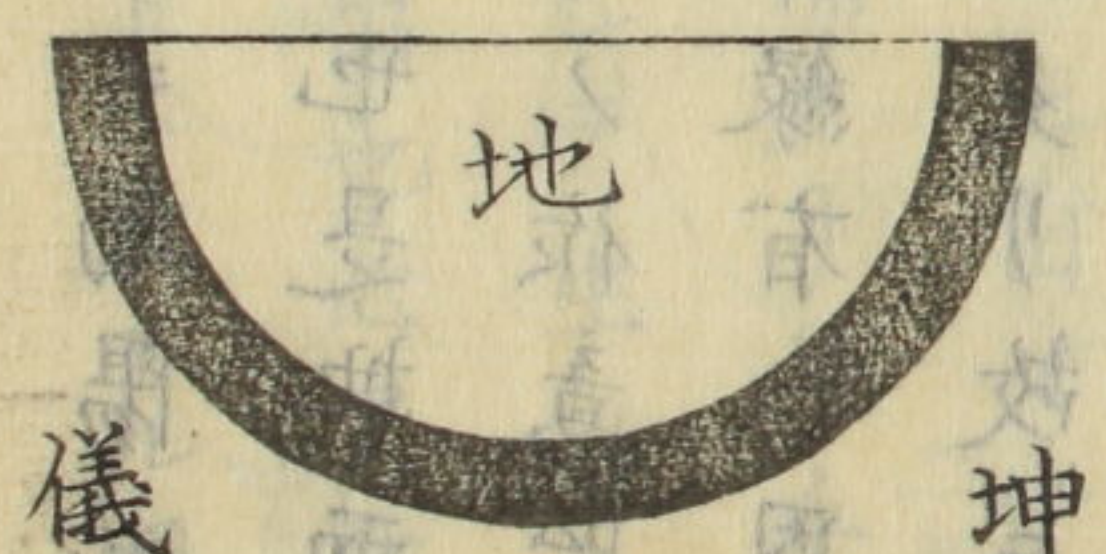
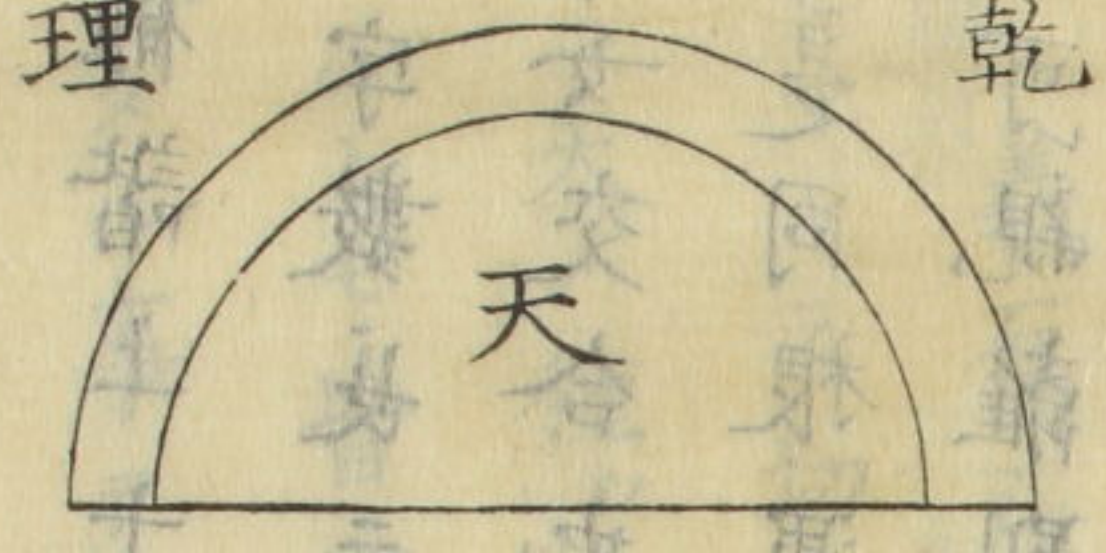
モ可

慎





善惡之類... 天地開闢之形也... 清キハ澄リテ天ト成リ  
 濁ルハ降りテ地ト成其中ハ中央ト云所謂天ハ父也地  
 ハ母也中央ハ人成レハ子也... 是排諧ノ發句腋第三  
 夕斗... 野昏... 十四... 長... 辭... 發...



凡日ノ字ハ天地開闢ノ形也清キハ澄リテ天ト成リ  
 濁ルハ降りテ地ト成其中ハ中央ト云所謂天ハ父也地  
 ハ母也中央ハ人成レハ子也... 是排諧ノ發句腋第三  
 夕斗... 野昏... 十四... 長... 辭... 發...

理

智

儀

天

六

右之圖者天人地ヲ本躰而萬法顯

既ニ俳諧上十七字數半ニ而陽也男也尤天也下  
十四字數長ニ而陰也女也是地而句番則天地和  
合男女交合也其中餘精ノ作意胎奇妙生出清濁  
二元是同根渾沌未分時緣有ニ因テ亦交合ノ中  
成必可親離別スル則他人タリ故ニ一句々々ヲ立ル  
上十七字ニモ理智議ヲ籠下十四字ニモ是備猶發句  
專之又和詔ニ精氣理ノ三品アリ  
乃此乃其。精身  
如るま日や。貞徳。氣身

如意宝珠

○理身

發句ニモ顯之萬物ハ有精非精共也出ノ字人間ノ生ル  
形口傳春日ハ三人ノ日也是父母子タリ如意宝珠ハ心  
ノ如ク出生スル宝珠也即是ヲ得タル人無之誠ニ天ノ理  
高地ノ義厚ニ春ノ日万物生出セハ是ヤ如意宝珠ナラ  
ニトセヤト云切字ニ智ヲ備タリ此手尔葉物而大事  
也誠ニ天ノ種ツ物ヲ地ニ降シテ生出カ如シ流石ニ一句  
ヲ仕ルトモ皆心上ヨリ生出也心ヲ知ラサレハ俳諧ノ道  
之道タル事ヲ悟リカタキトス次ナル圖ヲ見テモ知ベシ

主師親恩 三禮 切字  
 趣向 四智  
 作意 二義忠孝  
 題 一仁

然レハ發句ヲスルニ先題取彼作意ヲ廻シ是ニ切字ヲ入  
 能趣向ヲナスヘシ題春夏秋冬ノ季ヲ入ヘシ作意一節  
 可笑ク切字一二字ニテ自他善惡ヲ辨ヘ趣向ハ必詞ノ縁  
 ヲ思一句ヲ練ナスヘシ左ノ題ヲ取作意ヲ廻切字ヲ入趣  
 向ヲナス仁義禮智四ツ也信ハ各籠ル信ノ字ハ人ノ言ト書  
 タリ是俳諧也付句モ右ニ同前句ニ元付テ作意ヲ廻シ  
 手尔葉ヲ心得テ連續詞ニ結ス  
 如此俳諧者神道之根源日本之風俗尤奇也妙也  
 可貴可敬者也和詞三神之冥見可恐穴賢

松尾蕉翁傳

芭蕉庵桃青ハ伊賀國阿部郡柘植村の産也平云法  
宗清苗裔少テ松尾儀左衛門三男三八郎則翁也  
正保甲申年誕生幼名半七又系後甚四郎名ハ宗房後  
改桃青寛文三壬寅年翁歳十九初テ伊賀上野城主藤  
堂新七郎良晴小仕良晴卒後嫡子良忠仕良忠継名  
蟬吟北村季吟門人翁を愛してやわ小月苑を既ひ  
吟よめ忠良忠宗房両吟の巻ありといふ良忠祖父良  
勝ハ大坂役小戦死すを翁法違ふ  
大坂や見ぬ吟の巻やひり来  
蟬吟

とてきき翁の及や梅のよ  
寛文六年丙午四月良忠早世を翁深くうねり  
同来六月遺髪奉りて高野山小登報恩院小をさめ  
下旬歸國以報恩院去帳小ハ松尾忠左衛門後と記  
有るあれより翁志きき小遁世のころさ一有暇を  
願へとも許しあけきき秋七月隣家同僚孫ち美り門  
小一つの包をのびきき辞きその包の中小經冊あ  
り宗房廿三歳  
夫より京都小より吟使小遊學する幸七年京小

小竹泊新堂と號を寛文十二壬子年翁廿九歳より  
九月東都松風方一來る松風杉山氏

御入國より公用の魚屋なり小田原町小竹より後翁  
小石川水道修成傭夫となりて功績を頂薙髪して  
風羅坊素直と改時より松風より翁の句小竹

翁三十一歳夫より十徳を著して中なる

四丙辰年翁三十三歳此春三百韻の俳諧あり六月伊  
賀小玉を秋東都より歸り本所中郷完林院より禪  
學小入又鹿島混本寺より玉佛頂老師より禪意を悟

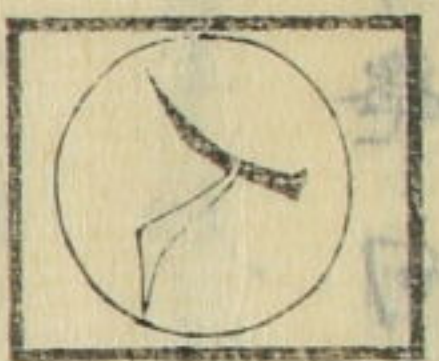
畫法を森川許六小得より何の年かのありり石山の  
奥小客居して幽閑をたのむ貞享四年廉鳴の吟  
行あり同五年杜園を携て大和小松より元禄二年曾良  
を率て陸奥より旅終り同七年の秋翁伊賀小玉より  
浪蕪より招り人々あれは奈良の重陽をのけてゆくと  
支考惟然を伴ひ風狂するの日痢を病て大坂新堂  
前苑を仁らるる後園小伏より病中の吟  
是風吟の終り終り七日をささく殺む歳みす有一  
嗚呼悲しいを此叟といひはた小龍舉りてあり

南狩の跡を聞きつゝいふ遊道を以て人々を教道せら  
 せしむる筆紙よつゝいふ先づをあげて志を定  
 めしめん元禄中並加判令城を行脚の勞を休る  
 初春より一會あり一會あり一會あり一會あり  
 役けしむる後會を約せんといふ前日  
 今宵のりてわづらふつゝいふ言語よのつゝいふ  
 恨むらゝい風雅の寂寥し我の浮世をよとらふ  
 あらゝい時來りて憂集の憂をむきい或ハ山中ハ一村  
 の雨を志のく志のるすかざる珠物滋味貴風流の  
 本意ならんやと中けるとやんさてその地ハ北枝暮

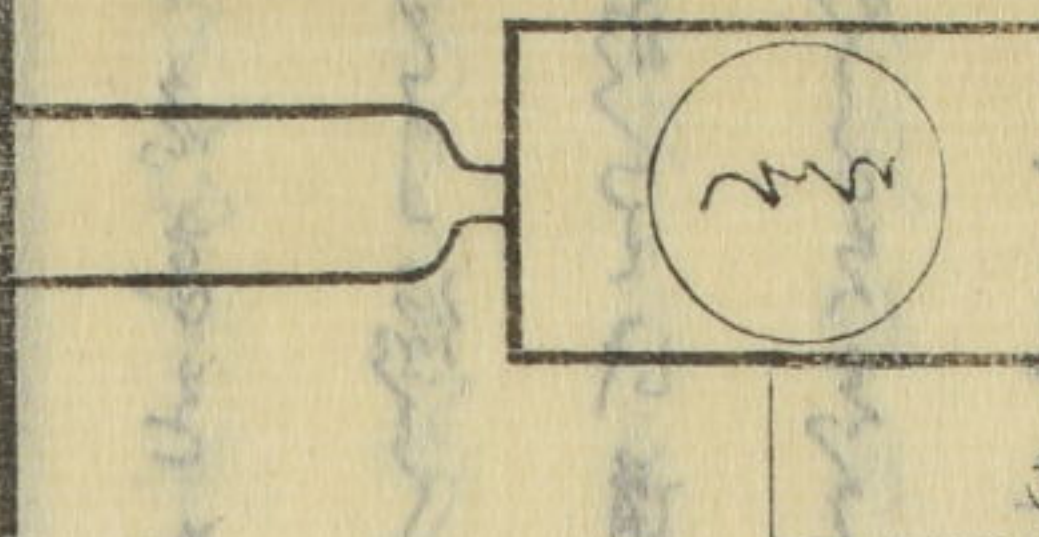
柳舎の名家をむせしも今も翁のそと深のま  
 るやうなるべし流るるりし北の遊道の宗通する人々  
 りつゝいふ道ハ入るるるるるるるるるるるるるる  
 いかゞかかかかかかかかかかかかかかかかかかか  
 情むるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

癸句姿見鏡傳  
 芳

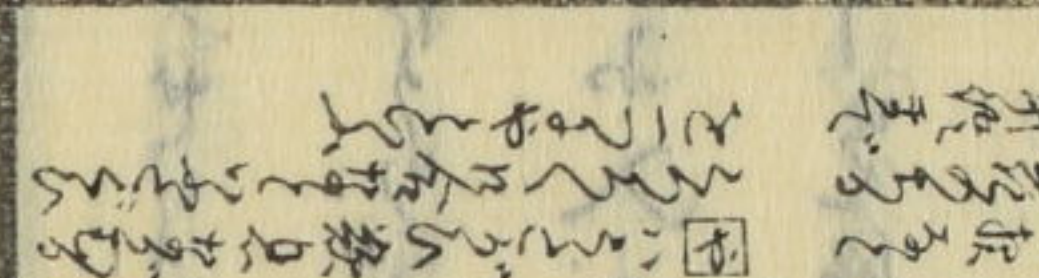
水



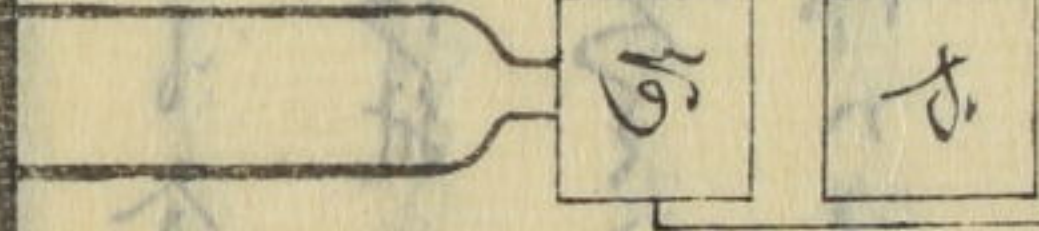
①天の天の字は  
上ノ字に横の点  
下ノ字に横の点  
左ノ字に横の点  
右ノ字に横の点



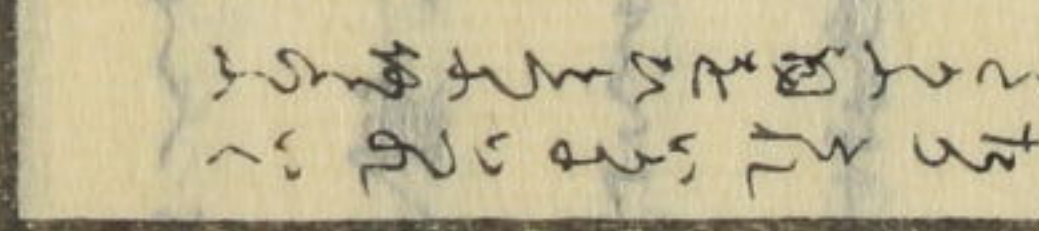
②天の天の字は  
上ノ字に横の点  
下ノ字に横の点  
左ノ字に横の点  
右ノ字に横の点



③天の天の字は  
上ノ字に横の点  
下ノ字に横の点  
左ノ字に横の点  
右ノ字に横の点



④天の天の字は  
上ノ字に横の点  
下ノ字に横の点  
左ノ字に横の点  
右ノ字に横の点



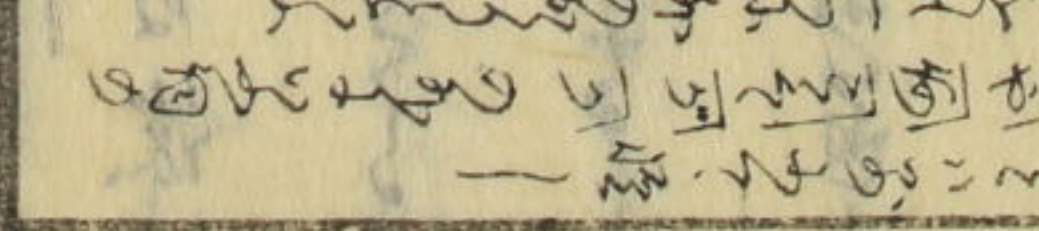
⑤天の天の字は  
上ノ字に横の点  
下ノ字に横の点  
左ノ字に横の点  
右ノ字に横の点



⑥天の天の字は  
上ノ字に横の点  
下ノ字に横の点  
左ノ字に横の点  
右ノ字に横の点

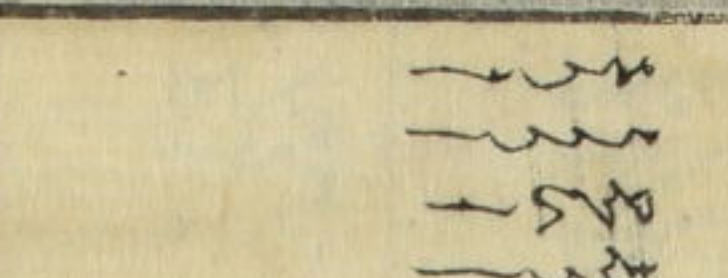


⑦天の天の字は  
上ノ字に横の点  
下ノ字に横の点  
左ノ字に横の点  
右ノ字に横の点

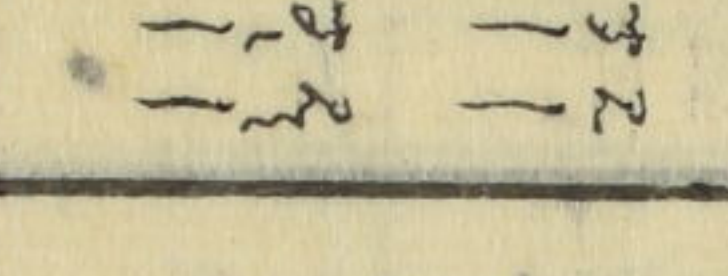


三つのはのり  
又ハ、ハ、ハの字は、  
右ノ字に横の点、  
左ノ字に横の点、  
上ノ字に横の点、  
下ノ字に横の点、  
不足不中不説不疑不行不雖不本の類ナリ

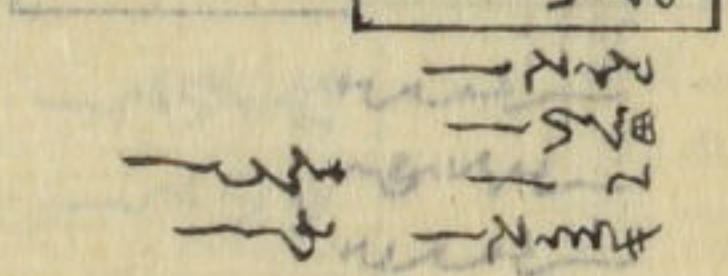
①天の天の字は  
上ノ字に横の点  
下ノ字に横の点  
左ノ字に横の点  
右ノ字に横の点



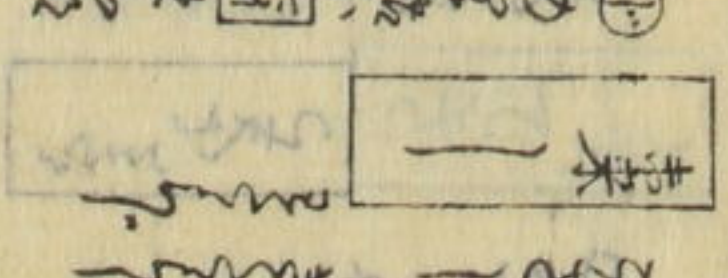
②天の天の字は  
上ノ字に横の点  
下ノ字に横の点  
左ノ字に横の点  
右ノ字に横の点



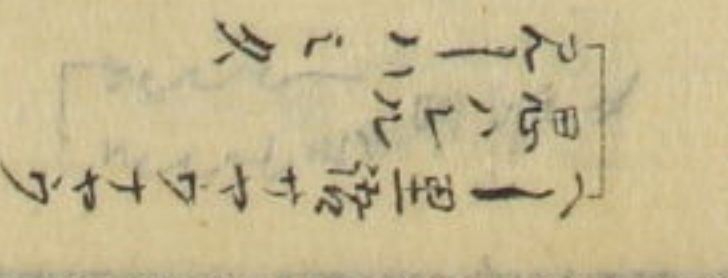
③天の天の字は  
上ノ字に横の点  
下ノ字に横の点  
左ノ字に横の点  
右ノ字に横の点



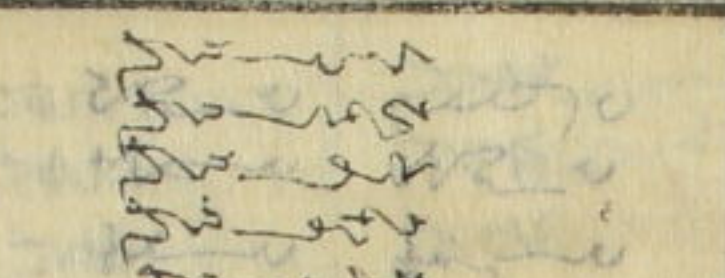
④天の天の字は  
上ノ字に横の点  
下ノ字に横の点  
左ノ字に横の点  
右ノ字に横の点



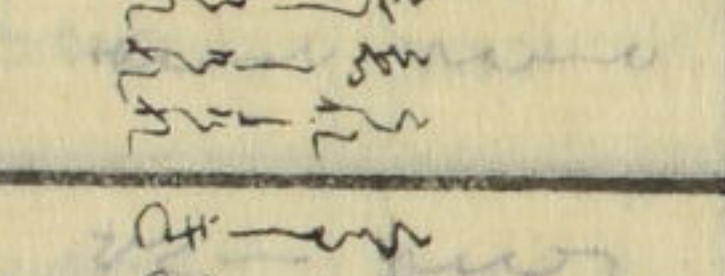
⑤天の天の字は  
上ノ字に横の点  
下ノ字に横の点  
左ノ字に横の点  
右ノ字に横の点



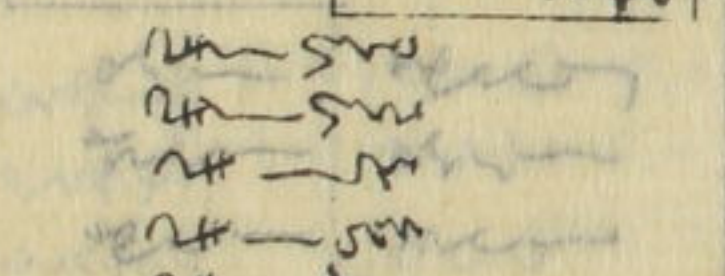
⑥天の天の字は  
上ノ字に横の点  
下ノ字に横の点  
左ノ字に横の点  
右ノ字に横の点



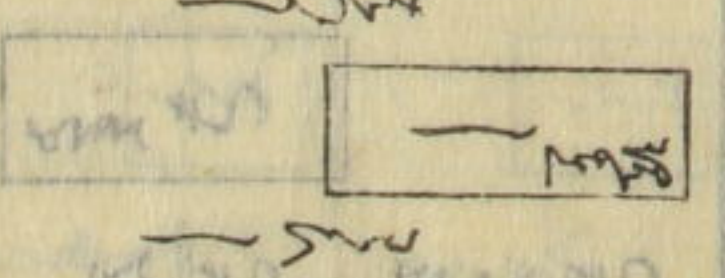
⑦天の天の字は  
上ノ字に横の点  
下ノ字に横の点  
左ノ字に横の点  
右ノ字に横の点



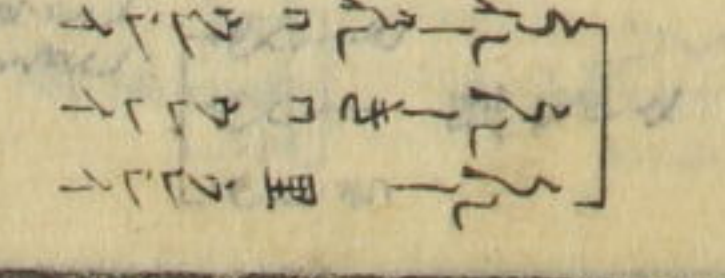
⑧天の天の字は  
上ノ字に横の点  
下ノ字に横の点  
左ノ字に横の点  
右ノ字に横の点



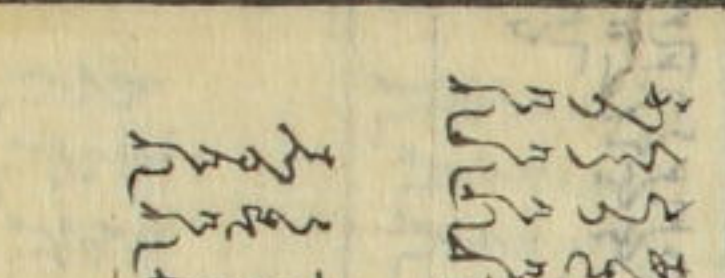
⑨天の天の字は  
上ノ字に横の点  
下ノ字に横の点  
左ノ字に横の点  
右ノ字に横の点



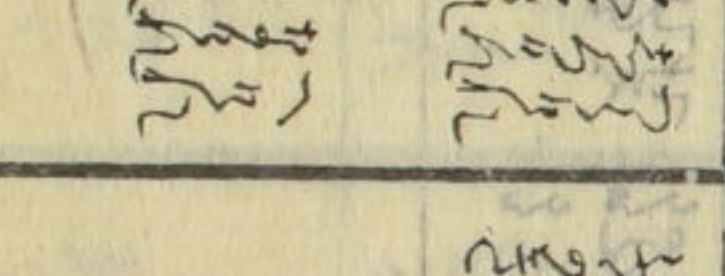
⑩天の天の字は  
上ノ字に横の点  
下ノ字に横の点  
左ノ字に横の点  
右ノ字に横の点



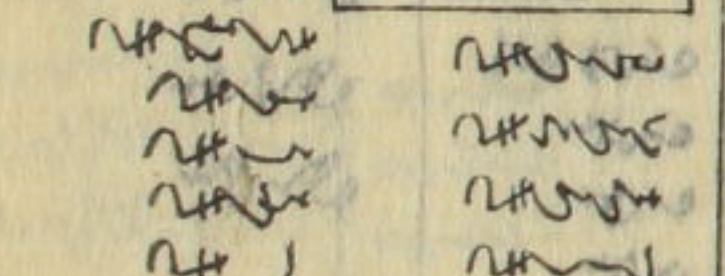
⑪天の天の字は  
上ノ字に横の点  
下ノ字に横の点  
左ノ字に横の点  
右ノ字に横の点



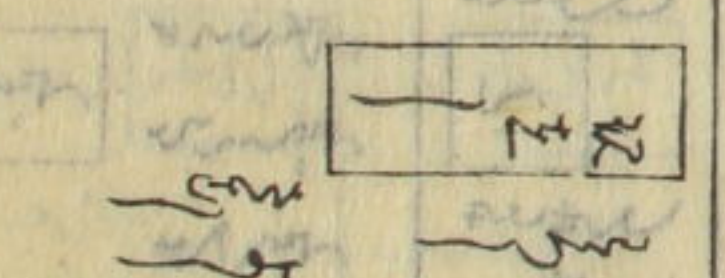
⑫天の天の字は  
上ノ字に横の点  
下ノ字に横の点  
左ノ字に横の点  
右ノ字に横の点



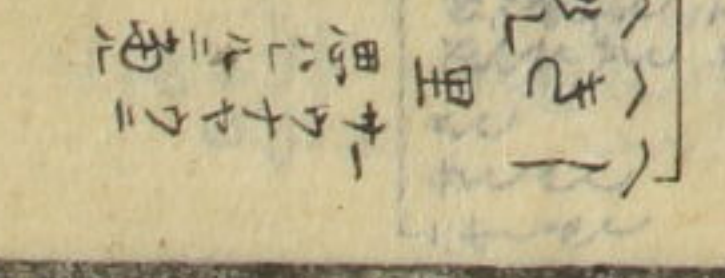
⑬天の天の字は  
上ノ字に横の点  
下ノ字に横の点  
左ノ字に横の点  
右ノ字に横の点



⑭天の天の字は  
上ノ字に横の点  
下ノ字に横の点  
左ノ字に横の点  
右ノ字に横の点



⑮天の天の字は  
上ノ字に横の点  
下ノ字に横の点  
左ノ字に横の点  
右ノ字に横の点



川

川

①里邊ナヤナナカ  
思ハル  
行ハル

②里邊ナヤナナカ  
思ハル  
行ハル

③里邊ナヤナナカ  
思ハル  
行ハル

行  
所  
得  
思  
流


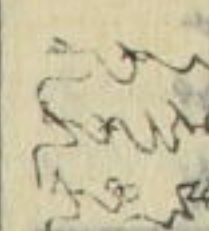
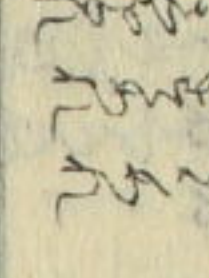
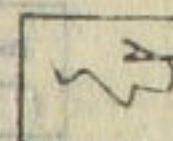
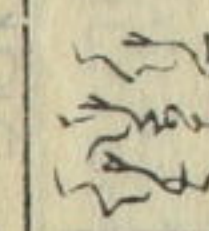
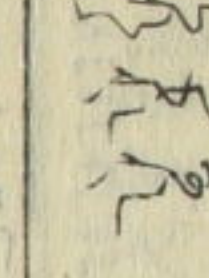
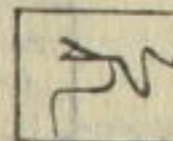
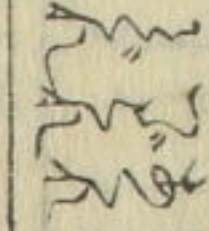
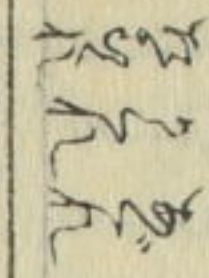
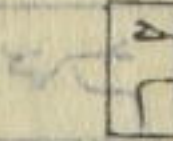
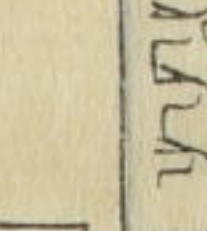
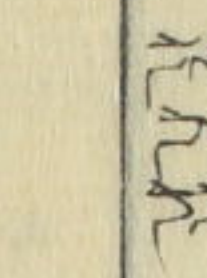
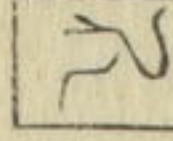
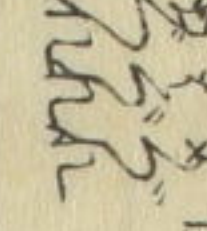
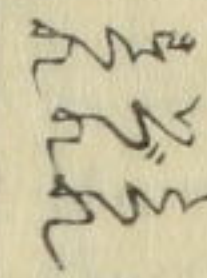
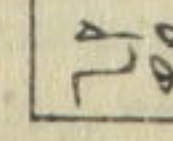

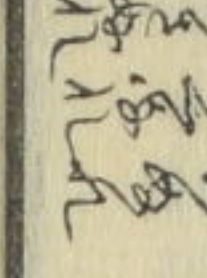
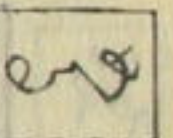
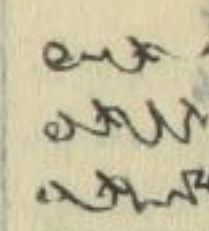
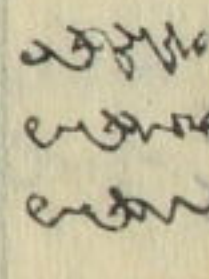
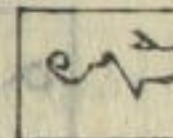
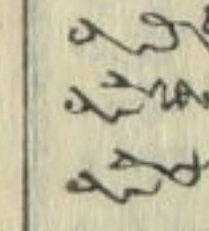
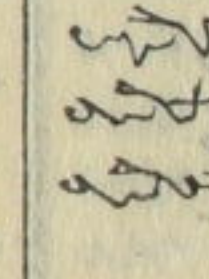
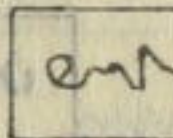
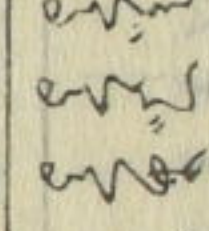
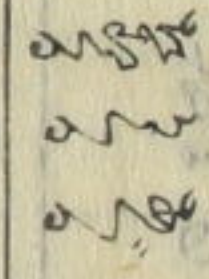
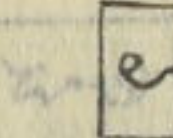
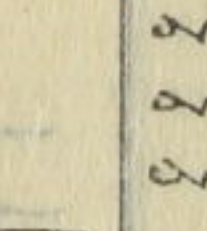
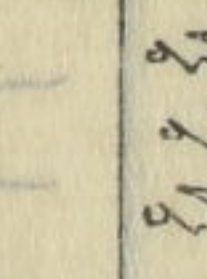
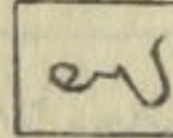
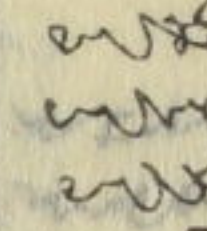
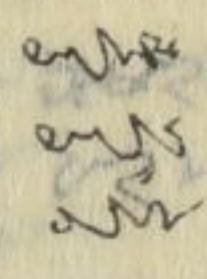
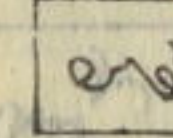

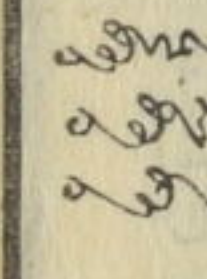
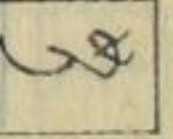
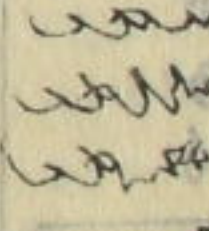
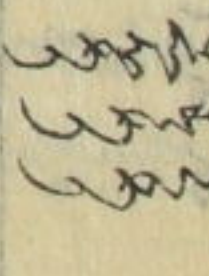

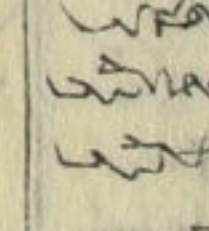
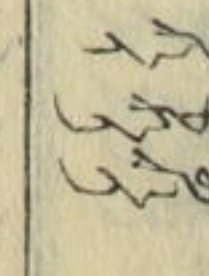
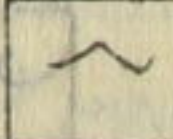


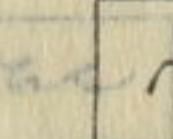
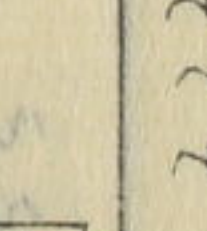

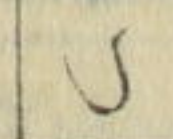
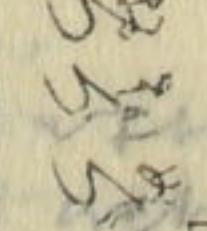
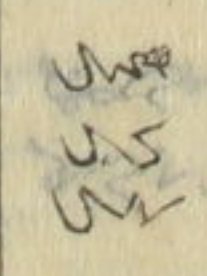
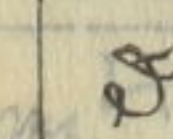

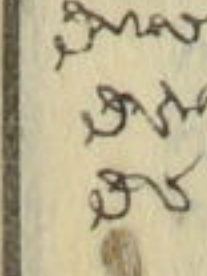

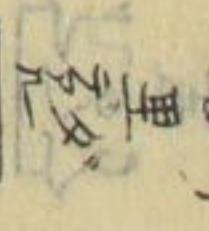
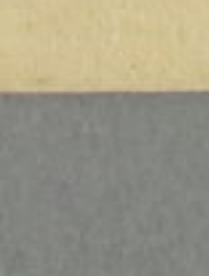

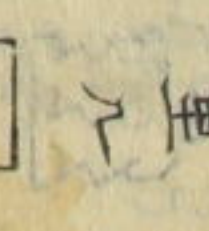


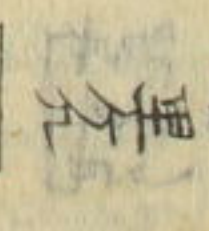
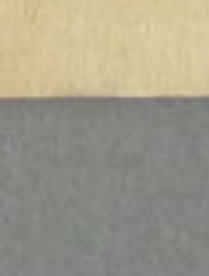

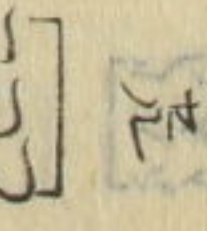
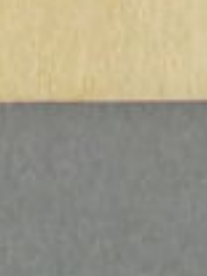

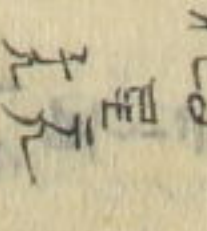
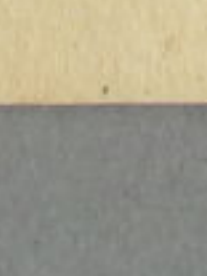

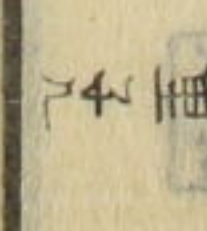

<p>12</p> <p>...</p>	<p>...</p>	<p>...</p>	<p>...</p>
<p>...</p>	<p>...</p>	<p>...</p>	<p>...</p>
<p>...</p>	<p>...</p>	<p>...</p>	<p>...</p>
<p>...</p>	<p>...</p>	<p>...</p>	<p>...</p>

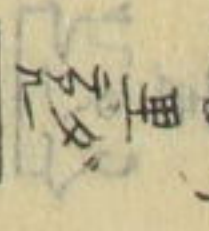
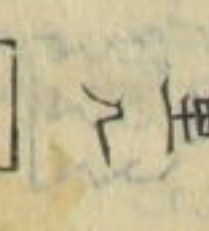
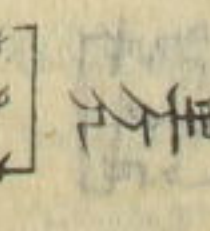
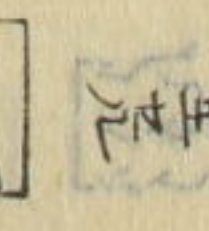
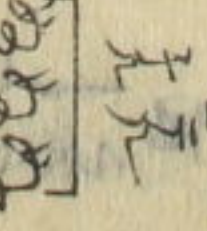
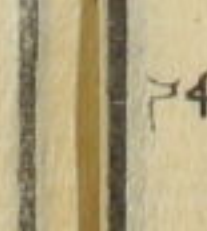
<p>...</p>	<p>...</p>	<p>...</p>	<p>...</p>	<p>...</p>
<p>...</p>	<p>...</p>	<p>...</p>	<p>...</p>	<p>...</p>
<p>...</p>	<p>...</p>	<p>...</p>	<p>...</p>	<p>...</p>
<p>...</p>	<p>...</p>	<p>...</p>	<p>...</p>	<p>...</p>

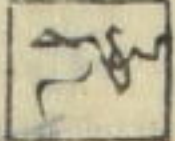
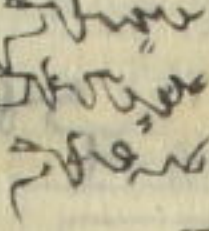
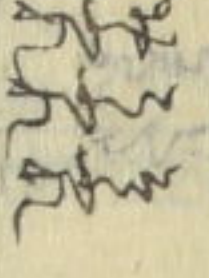
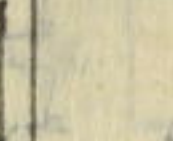
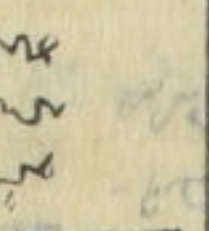
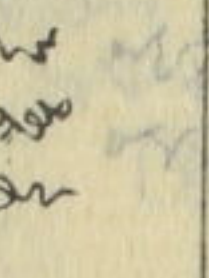
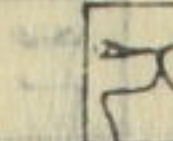
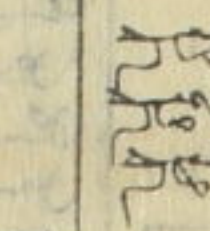
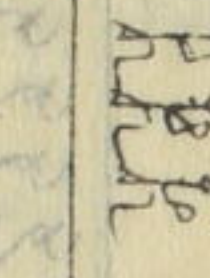

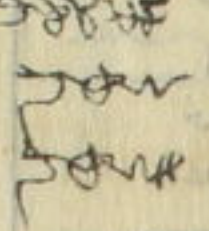
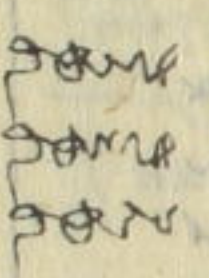
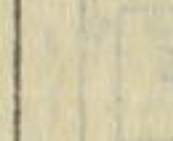
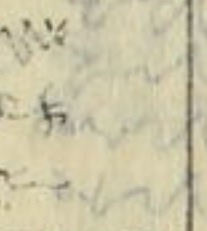
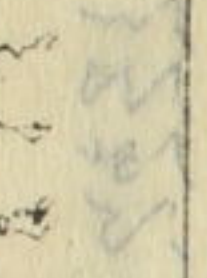

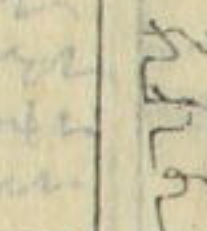
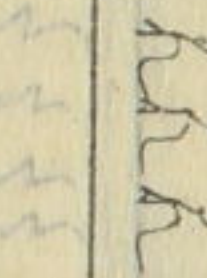
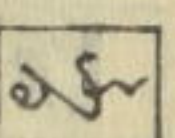
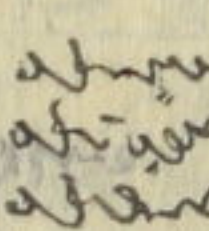
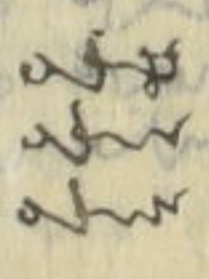
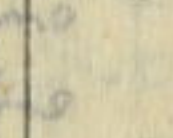
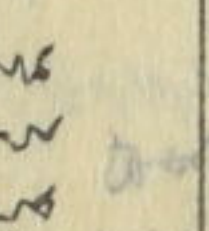
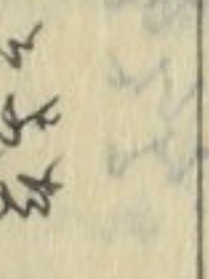
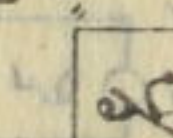
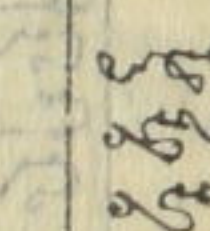
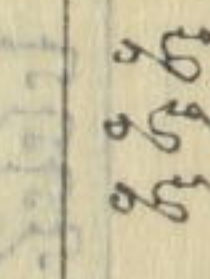
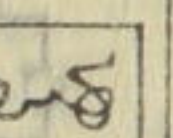
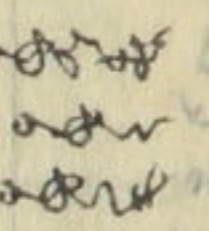
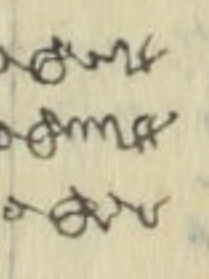
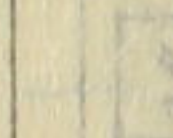
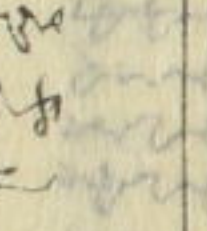
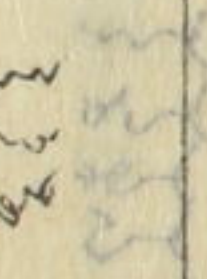
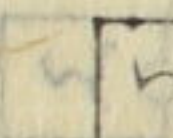
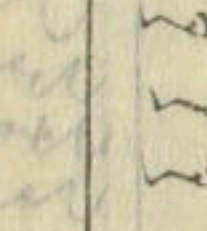
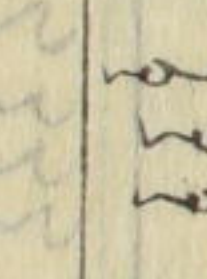
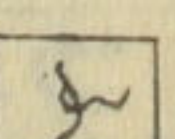
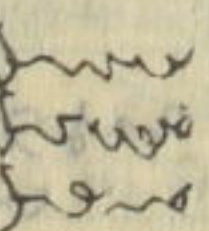
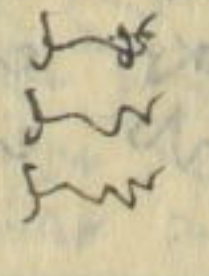
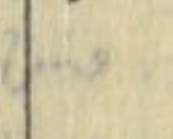
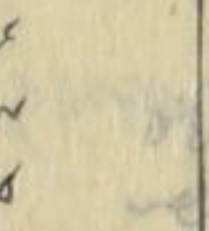
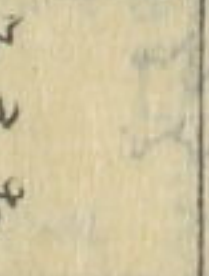
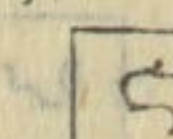
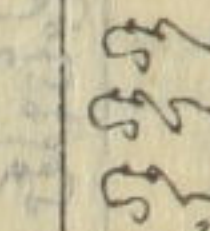
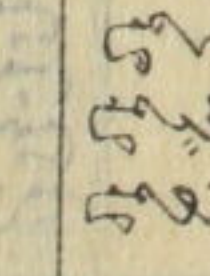
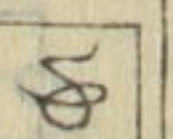
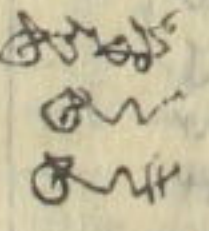
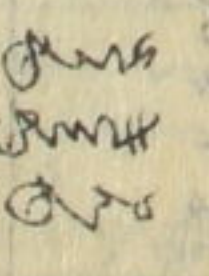
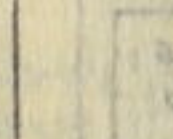
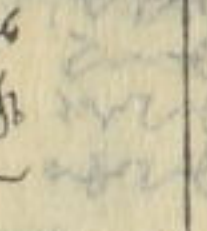
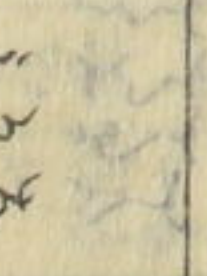
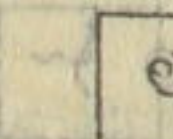
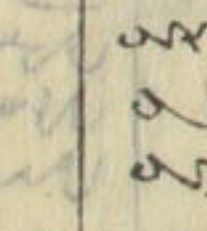
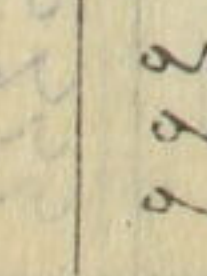

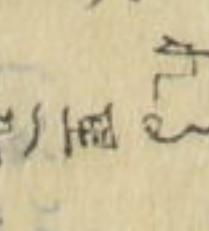


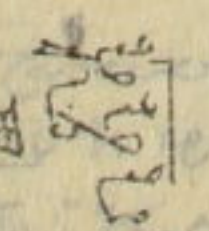

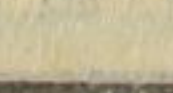
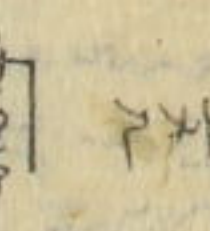

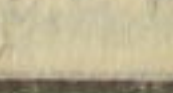
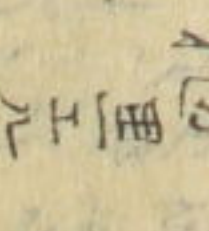



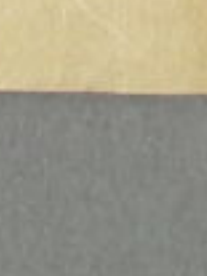

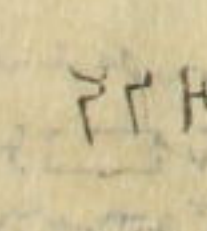
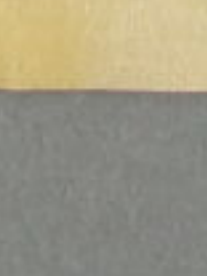
...


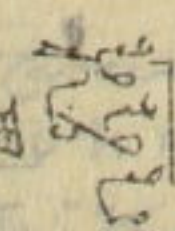
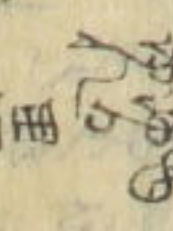
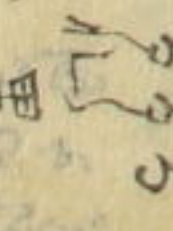

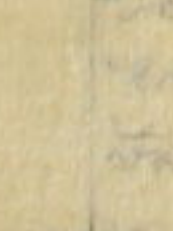
...



 九里九  
 九里九  
 九里九  
 九里九  
 九里九  
 九里九

 九里九  
 九里九  
 九里九  
 九里九  
 九里九  
 九里九

九

九



知息自得傳

蓋天地人の三才ハ大虚の體用とある要道なれど  
 四民中カホキミハあるつうきとれ天と圓ナリて  
 龜ナリてハ白く清らホキミテのやるハホキミテ  
 別人の幸のハ形ナリ地ハ四角ナリト龜ホキミテ  
 黒穢ナリテ墮るものありつうきとれ人ハ一圓カ  
 小天地このやまよハホキミテハ天にホキミテハ清  
 くホキミテのゆるハホキミテハ形ホキミテのやハ地ホキミテのや  
 ナれハ穢ホキミテハ墮るものありつうきとれ又ハホキミテハ  
 後ハホキミテハホキミテハ天とホキミテハ

廣くホキミテホキミテホキミテホキミテホキミテ  
 あらハハ愛格ホキミテホキミテホキミテホキミテ  
 格ホキミテホキミテホキミテホキミテホキミテ  
 居大人カ愛格ホキミテホキミテホキミテホキミテ  
 の格ホキミテホキミテホキミテホキミテホキミテ  
 あらホキミテホキミテホキミテホキミテホキミテ  
 愛格ホキミテホキミテホキミテホキミテホキミテ  
 時ハ天地人カホキミテホキミテホキミテホキミテ  
 してハホキミテホキミテホキミテホキミテホキミテ































① 是ハハツト 兼向あれ  
 ② 兼向あれ  
 ③ 兼向あれ  
 ④ 兼向あれ  
 ⑤ 兼向あれ  
 ⑥ 兼向あれ  
 ⑦ 兼向あれ  
 ⑧ 兼向あれ  
 ⑨ 兼向あれ  
 ⑩ 兼向あれ

⑪ 兼向あれ  
 ⑫ 兼向あれ  
 ⑬ 兼向あれ  
 ⑭ 兼向あれ  
 ⑮ 兼向あれ  
 ⑯ 兼向あれ  
 ⑰ 兼向あれ  
 ⑱ 兼向あれ  
 ⑲ 兼向あれ  
 ⑳ 兼向あれ

かやの部

① 是ハハツト 兼向あれ  
 ② 兼向あれ  
 ③ 兼向あれ  
 ④ 兼向あれ  
 ⑤ 兼向あれ  
 ⑥ 兼向あれ  
 ⑦ 兼向あれ  
 ⑧ 兼向あれ  
 ⑨ 兼向あれ  
 ⑩ 兼向あれ

かやの部







~~~~~

~~~~~ 樹水

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~









て言はざるもろろあり入りてこころありその中よ四肘の尻  
 少は後生死有情能境なる虚より成りて實なる多  
 きしよありて邪なりて虚ハ境の体なりて實なる境の  
 用なりて正の体ありて成りたる光影ありて佛道の和ハ虚  
 よりて實ハ後より佛道の皆空ハ虚なりて實相ハ実と  
 又文よありてハ虚ハ又より実ハ實ハ實ハ虚ハ境ハ  
 實ハ實ハ又虚實ハ實ハ化なりて化ハ化中よ多あり  
 且実中少化有なる時ハ天地の未冥ト已開ナリて  
 少ありて人の一息未生と已生とあり一合ハ紀の  
 とありてありある有りてありてありてありてありてありて

合の和一合より一りのありてありてありてありてありて  
 人の得一ありてありてありてありてありてありてありて  
 せりてありてありてありてありてありてありてありてありて  
 律義少ありてありてありてありてありてありてありてありて  
 ありてありてありてありてありてありてありてありてありて  
 働たりてありてありてありてありてありてありてありてありて  
 智とありてありてありてありてありてありてありてありてありて  
 と彼ありてありてありてありてありてありてありてありてありて

















秋八月千里を携へて古より甲子祀りあり  
りゆきり祀り又多統とあり  
外ゆきり風をむかふ

草木の茂るハ陽より春夏草木ののりハ陰  
ありて秋ありて天地の盛衰吉凶を伸止付  
なりゆきり風をむかふ  
あそとゆきりゆきりゆきりゆきりゆきりゆきり  
あそとゆきりゆきりゆきりゆきりゆきりゆきり  
あそとゆきりゆきりゆきりゆきりゆきりゆきり  
あそとゆきりゆきりゆきりゆきりゆきりゆきり

我してかの大虚とて正風をむかふ

あそとゆきりゆきりゆきりゆきりゆきりゆきり

あそとゆきりゆきりゆきりゆきりゆきりゆきり

あそとゆきりゆきりゆきりゆきりゆきりゆきり

あそとゆきりゆきりゆきりゆきりゆきりゆきり

あそとゆきりゆきりゆきりゆきりゆきりゆきり

あそとゆきりゆきりゆきりゆきりゆきりゆきり

あそとゆきりゆきりゆきりゆきりゆきりゆきり

あそとゆきりゆきりゆきりゆきりゆきりゆきり

あそとゆきりゆきりゆきりゆきりゆきりゆきり



約のささのびく様ゆのなきさけぶいあなれなもりの  
ゆきよあ人わくのぶくゆりいおりのささ様  
さする人こふ今この様子のあくさきうせ秋風  
のささいささせささいゆふとくるさささささ  
あゆりゆりてハ人の性善なるカのゆらゆら様よう  
小様子のなるいあささささささささささささ  
たつた大虚なりやうふゆのきささささささささ  
日  
少あきてさささささささささささささささささ  
さささささささささささささささささささささ

外及の一のゆ様いさささささささ  
ゆ横ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ  
牽牛花是かろささささささささささささささ  
馬酔木と書  
さささささささささささささささささささささ  
あささささささささささささささささささささ  
ささささささささささささささささささささ  
ささささささささささささささささささささ

て嘆もするおろくろくもする土の風をよそく檀  
 林地階着能くして正風一流は大虚常住のまを  
 て依人をとてくはるべきもよもよもいともあ  
 らず中より誠後お栞崎百姓まはるハ無数の不  
 孝者なるをともくきく一日ありをいひきく  
 て孝好者となり清徳又いひきくほごのわのふ  
 たりしを令く海のさくまをやうなるとがゆえあり  
 されば地階ハ歡言徳悪なるの地ありともいひきく

且大虚常住のまを

ラウレ  
ッ  
ニチノニチトス  
キハツ子ノニチニアラス  
ナノナトス  
キハツ子ノニチニアラス  
 老子曰道可道非常道名可名非常名

何ありのくのごく長徳もかよそて後からさげはる  
 ひともよふをさして大虚より幸むともりふあれ  
 幸むを得るハ地ありともいひきく  
 幸乃若をいひきく自得もものありともいひきく  
 りともいひきく人ありともいひきく  
 ともいひきく文を令大入門人ともいひきく  
 ともいひきく  
 ともいひきく極もいひきく  
 ともいひきく佛ともいひきく  
 ともいひきく

此の道は... 月... 途... 井...

此の道は... 月... 途... 井...

生 老 病 死

諸行無常 是生滅法 生滅各已 寂滅為樂

いろいろはにほへど つかねなれたれど けふのおくやま ありきゆめみり

や佛... 諸行無常... 生滅各已...

地

七



のしきしきまじりて私にふしむるのちしきしき  
 つらきまじりてつらきまじりてつらきまじりて  
 一なるかみけのうづらきやねのうづらきまじり  
 大虚らまじりてつらきまじりてつらきまじり  
 つらきまじりてつらきまじりてつらきまじり  
 つらきまじりて

ちれ 夏の月よなるものききぬまじりてつらきまじりて

詩

百千萬劫菩提種 八十三年功德林

赤あめくく日ハつれあつく小教の風

此のハリの家のハヨ。こつれてつらきまじりて  
 てる格あつく十九とわらうまじりてつらきまじり  
 つらきまじりてつらきまじりてつらきまじり  
 つらきまじりてつらきまじりてつらきまじり  
 つらきまじりてつらきまじりてつらきまじり  
 つらきまじりてつらきまじりてつらきまじり  
 つらきまじりてつらきまじりてつらきまじり  
 つらきまじりてつらきまじりてつらきまじり  
 つらきまじりてつらきまじりてつらきまじり  
 つらきまじりてつらきまじりてつらきまじり

あめくくハ顔淵歎曰仰之彌高鑽之弥堅瞻

之在前忽焉在後

風の吹くやふりり... 風の吹くやふりり... 風の吹くやふりり...

ひたひたの吹るの浦のありく... 日 風の吹くやふりり...

詩

月ソキ 隱重山チウヤシニカクル 兮アフキヲアケテコシヲカマカセヨイキヨニヤシテ 舉扇キョウゴカシテ 喻之コシヲラシテ 風息カゼノイキ 大虚オホソラ 兮アフキヲアケテコシヲカマカセヨイキヨニヤシテ 動樹キョウゴカシテ 教之コシヲラシテ

下

月影のやこ... 月影のやこ... 月影のやこ...

このや... 月影のやこ... 月影のやこ...

を... 月影のやこ... 月影のやこ...

ふ... 月影のやこ... 月影のやこ...

月影のやこ... 月影のやこ... 月影のやこ...

月影のやこ... 月影のやこ... 月影のやこ...

月影のやこ... 月影のやこ... 月影のやこ...

月影のやこ... 月影のやこ... 月影のやこ...

月影のやこ... 月影のやこ... 月影のやこ...

月影のやこ... 月影のやこ... 月影のやこ...

月影のやこ... 月影のやこ... 月影のやこ...

月影のやこ... 月影のやこ... 月影のやこ...

月影のやこ... 月影のやこ... 月影のやこ...

月影のやこ... 月影のやこ... 月影のやこ...

月影のやこ... 月影のやこ... 月影のやこ...

月影のやこ... 月影のやこ... 月影のやこ...

月影のやこ... 月影のやこ... 月影のやこ...





花女めく  
 けりてはなはたきけはうのあはれ  
 けりてはなはたきけはうのあはれ  
 けりてはなはたきけはうのあはれ  
 けりてはなはたきけはうのあはれ  
 けりてはなはたきけはうのあはれ

詩

更サラニツクフツノヒトノメニアタルナシ魚俗物 當人眼 但有泉聲 洗我心

外サキモト葉の音や 葉の趣  
 けりてはなはたきけはうのあはれ  
 けりてはなはたきけはうのあはれ  
 けりてはなはたきけはうのあはれ  
 けりてはなはたきけはうのあはれ

集天

るハ 朝つあつて 夕やまのれまを 文章よあはれ  
 けりてはなはたきけはうのあはれ  
 けりてはなはたきけはうのあはれ  
 けりてはなはたきけはうのあはれ  
 けりてはなはたきけはうのあはれ

詩

蘭ラン花ハナ自ミ慙コト為シ俗骨 權ケン籬シ不信 有アル長チカ生シ

かみの如く 髪をひいて 常は 常は 常は  
 けりてはなはたきけはうのあはれ  
 けりてはなはたきけはうのあはれ  
 けりてはなはたきけはうのあはれ  
 けりてはなはたきけはうのあはれ





詩  
天を越して千里の...  
なまじりや

詩

シフハラコウノサコトニモノチニオラハレイツセンチンノイロハニキノウチニオカレ  
十八公 榮霜後露 一千年色 雪中深

日

あふ...  
あふ...  
あふ...  
あふ...

あふ...  
あふ...

下

此の...  
此の...  
此の...  
此の...

あふ...  
あふ...  
あふ...  
あふ...  
あふ...

詩

タガ...  
誰 家 思 婦 秋 擣 帛 月 苦 風 凄 砧 杵 悲

日

あふ...  
あふ...  
あふ...  
あふ...

あふ...  
あふ...  
あふ...  
あふ...

是のあつちのめをぬきと切れしうらむのちのちのち  
りいさすうらむしむきちのむきりのむきむきむき  
向のこいあひの志をきいてさうさうさうさうさうさうの  
うれてるさやとさうさうさうさうさうさうさうさうの  
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうの  
まれも道さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうの  
年ふよもさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうの  
と地階さあさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうの  
はんほさのあさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうの  
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうの

西のち

奥院入りしけ入る後醍醐帝の御廟を築て  
後廟を築てさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうの  
ちんハ銀のよさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうの  
と二字入るさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうの  
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうの  
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうの  
後醍醐帝建武の大乱小北條高時小隠岐の

也

二

國一海をわたるまはりのみ 太平記のまはりのみ  
されしとて建てるに海を渡るまはりのみ  
さうらひのけりてあて又むきとるさうらひのゆきと  
はくまをを感へるさうらひの

詩

雖觀秋月波中影 未道春花夢裡名

その身をゆきとるまはりのみ けりてあて又むきとるさうらひのゆきと

くくのゆきとるまはりのみ 観の精一をあててはきとるさうらひの  
はくまをを感へるさうらひの

法苑珠帝の山麓城の後書

一天萬衆の君をたもつてのゆきとるまはりのみ  
さうらひのゆきとるまはりのみ 未道春花夢裡名  
さうらひのゆきとるまはりのみ

村のゆきとるまはりのみ けりてあて又むきとるさうらひのゆきと  
はくまをを感へるさうらひの  
さうらひのゆきとるまはりのみ けりてあて又むきとるさうらひのゆきと  
さうらひのゆきとるまはりのみ けりてあて又むきとるさうらひのゆきと  
さうらひのゆきとるまはりのみ けりてあて又むきとるさうらひのゆきと

皇徳今頃と申をさしてはあふ守武の事

秋の風よ〜

秋の風よ〜

秋の風よ〜

秋の風よ〜

秋の風よ〜

秋の風よ〜

秋の風よ〜

秋の風よ〜

秋の風よ〜

秋の風よ〜

秋の風よ〜

秋の風よ〜

秋の風よ〜

秋の風よ〜

秋の風よ〜

秋の風よ〜

依頼朝公ハ平家を亡〜天下泰平國ハ安令子治め



天地開闢以來多かりたき日  
 奉勅進補使の重職より昇進ありて人々を我れ  
 公必命のこたへに又ふりてんきて勅命をせり  
 人の無我の大徳を感歎して是るくは徳を  
 人も小勅命をかこつて私心もあはれ  
 せりたまふし甲子孫亡しうそのさうい  
 たりあきらむる人一代まれなり奉む天  
 地ありてあきらむるまをさるるより  
 公の大徳天地ふりてりや徳源家よて國  
 家を治め治るる仁徳のありてきこを感

并して句のゆきをまゝ

詩

專ホン諸シヨ荆ケイ卿ケイ之ノ感激カン侯ガキ生セ豫コウ子セイ之ヨ投シ身カ心ミ爲ラ恩トウ使シ  
イノチキニヨリテカコレ  
 命イノチ依ヨリ義カガヒ輕カサ

天のうらみきりてんをさへんようの極文級の母愚縁  
 世の中へてうらみさへんはらのたつてりるをえり  
 せらのくわりのくちるむえり

發句三鳥傳

雪や 竹の子 老を啼

傳日 雪はくうんまふあ〜に 得具比須也得と

天小 得る明德具ハツナル比ハヤハラゲテ須ハ

モナヒの意あつて人の本心あり 是則雪のさへ

づるあ〜人の物言ハ別あつて 竹の子 老

不 志を唱をす〜 三鳥唯一心を発し〜る感

吟 ちり

百ふるさつづるまゝの毎はあら〜まの〜と

詩

年年歳歳花相似 年年人不同

〜の〜〜 毎常を觀して 大虚常住を得具比

須を念と念〜

積り〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜 其角

喚子もハよ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜 喚古登理なりよ

一バこと〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜 人の奇妙なるよ

こそと〜〜〜〜〜

をとのま〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

ををハ出入言の糸 糸ハ息を〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

性性ハ氣と理と合ての名 ぬが〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

七

三



ちとひもをさつ編る世をも編まはるハ別ふ  
して一作はるべきハ天人一致也

子曰天何言哉四時行焉百物生焉天何言哉

莫非天理發見流行之實不待言而可見聖  
人一動一靜莫非妙道精義之發亦天而已

公羽亦如此哉

發句三木傳

世の人の足つけぬは行の憂

業はくつまあり久理也世の人ハ大虚の心と

志ぬ人を軒ハ人の氣形をり久理ハ人

の本性をいふ足つけぬハ道の近きよあるをくら

あてなきよカむむる久理の花ハ我々んをれ

ハ自得なるのわがきを地をくらカむむる

いづのゆるゆるの流さるるあるをくらカむむる

いづのハ大虚心家ハ人の氣形ハ多見あり

七世のよはるるありありありありありあり

あまのあまのきりぎりすのわりのわりのうらやまのハ大虚草を  
あまのあまのきりぎりすのわりのわりのうらやまのハ大虚草を  
あまのあまのきりぎりすのわりのわりのうらやまのハ大虚草を

まよりのハ何の香もやうー梅の花 ぬき法原

梅はうらやまのあまのきりぎりすのわりのわりのうらやまのハ大虚草を  
あまのあまのきりぎりすのわりのわりのうらやまのハ大虚草を

あまのあまのきりぎりすのわりのわりのうらやまのハ大虚草を

あまのあまのきりぎりすのわりのわりのうらやまのハ大虚草を  
あまのあまのきりぎりすのわりのわりのうらやまのハ大虚草を

小部たまのあまのきりぎりすのわりのわりのうらやまのハ大虚草を

應神天皇鬼道皇子を愛したまふ又君のふま

りせ 仁徳帝位小部たまのあまのきりぎりすのわりのわりのうらやまのハ大虚草を

つせま小部君ハ我身ありてハ是君帝位よつせまのあまのきりぎりすのわりのわりのうらやまのハ大虚草を

ぬゆき宇治ゆりてあまのきりぎりすのわりのわりのうらやまのハ大虚草を

あまのあまのきりぎりすのわりのわりのうらやまのハ大虚草を

あまのあまのきりぎりすのわりのわりのうらやまのハ大虚草を

あまのあまのきりぎりすのわりのわりのうらやまのハ大虚草を

あまのあまのきりぎりすのわりのわりのうらやまのハ大虚草を

あまのあまのきりぎりすのわりのわりのうらやまのハ大虚草を

梅の香をうけあて 何の事か... 我中...  
仁徳帝ハ又君ハ向ハ奉ルハ又君の外ハ強ク...

流浮の如ク 西遊ク 金鼓の花...

あふの流ハ... 金鼓の花...  
て 鼓BUCHI...

あふの流ハ... 金鼓の花...  
あふの流ハ... 金鼓の花...  
あふの流ハ... 金鼓の花...

あふの流ハ... 金鼓の花...

あふの流ハ... 金鼓の花...

雖イモ 觀音クワンオン 威力イキリキ 廣大オホクニ 不信ヒトコト 不顯アツク 雖イモ 有アル 扇風センフウ 不御アツク 不アツク

あふの流ハ... 金鼓の花...

あふの流ハ... 金鼓の花...

切字結字傳

凡和字少ても綴句よても切字とらふは甚別ある  
 るして初學のもののいれむいふる半ありはよくん  
 ぬおくりきりなりたるとしてきき切ハ断と同多あり  
 作りつゝのぬゝとわよきとらうして切ハあゝをむ  
 多うあり綴句に際切とらうして切ハあゝをむ  
 小根とありはれハ二とらうして切ハあゝをむ  
 治とありはれ國とをえとらうして切ハあゝをむ  
 とらうしては陽とらうして切ハあゝをむ  
 地ハ未後の附ハ唯一とらうして切ハあゝをむ

なり是別三千世界唯一とらうして切字ハ  
 極字ありぬふやまゝとらうして切字ハ  
 コトのなゝとらうして佛經ハ一字より八萬金經や  
 たり儒書ハ一冊より十三經とらうして神書ハ一冊の  
 たり止り古事記日本紀やおよぶと根字ハ唯一と  
 たりとらうして一とらうして一切のものとの如くならん  
 夢よまれぬ白ふまれ結よとらうして切字ハ  
 とらうして唯一とらうして大事あり人の五臓地水  
 火風空のふつをむとらうして切字ハ  
 餘とあり空とあり又現世の天男の息とありと





切字結字傳

和歌



發句



和歌七段切

本 萩のふ 蓬の 梅子のふ やぶふ 蘭 葎のふ

本 萩のふ 蓬の 梅子のふ やぶふ 蘭 葎のふ

本 萩のふ 蓬の

眼のふ 心付のふ 心付のふ

本 萩のふ 蓬の 梅子のふ やぶふ 蘭 葎のふ

發句變格傳

變格

梅 萩のふ 梅のふ 梅のふ

梅 萩のふ 梅のふ 梅のふ 梅のふ

目

井のふ 後のふ 千年

梅 萩のふ 梅のふ 梅のふ 梅のふ

梅 萩のふ 梅のふ 梅のふ 梅のふ

梅 萩のふ 梅のふ 梅のふ 梅のふ

梅 萩のふ

三才格

我々

しんじゆのちんじんわくわくしんじゆのちんじんわくわくしんじゆのちんじんわくわく

日

梅一三二一りんわくのあまのこゝろ

日

秋萩をささげしんじゆのちんじんわくわくしんじゆのちんじんわくわくしんじゆのちんじんわくわく

有愛格のこといかりん自傳傳みあらうしんじゆのちんじんわくわくしんじゆのちんじんわくわく

いんじゆのちんじんわくわくしんじゆのちんじんわくわくしんじゆのちんじんわくわく

天仁遠波傳

天仁遠波傳

① 天あてアメリもツラとて訓ど一ニ从ひ大お从ふ

大ハ人の大飛一ハ上ハありの飛およ大の字地

の一畫りあり

② 仁あてイツクシムと訓ど二ハ地の數あり偶の

形天大て地開ききりあつて夜ハ暗く一より一を

方ふあつるの略なり易卦一數を以て自傳を著し

天地の氣を以て仁を發せざるなり

③ 遠みてトホシと訓ど出よ从ひ□ニ从ひ二人よ

从ひ是ニ从ふ也出ハユク也訓ど□の中より人の歩を

細い糸の形は人糸止は是トあきあき俗は進  
入細い糸は也

①は波少でナと訓どぬは皮ニ入水ナ三  
あるハ獣皮小文なはく人のをを文字は模  
小家ねる也

ておとをくくくハ新あまれりよまきぬれ  
くくハ一糸は春夏秋冬の四季あましく此四つハ一年

の用少く体ハ一糸あり此一年より十年百糸より年万  
年億兆より無算の大数ありてハ年糸ハ少くも

又台厘毛忽より無算の少敷りて  
ついでに糸糸あまのうらうらきくぬれぬれぬれぬれ年  
体ハ糸のちくちくあまのうらうらきくぬれぬれぬれぬれ

糸あまのうらうらきくぬれぬれぬれぬれぬれぬれ  
あまのうらうらきくぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれ

糸あまのうらうらきくぬれぬれぬれぬれぬれぬれ  
糸あまのうらうらきくぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれ

糸あまのうらうらきくぬれぬれぬれぬれぬれぬれ  
糸あまのうらうらきくぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれ

糸あまのうらうらきくぬれぬれぬれぬれぬれぬれ  
糸あまのうらうらきくぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれ

糸あまのうらうらきくぬれぬれぬれぬれぬれぬれ  
糸あまのうらうらきくぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれ



後とみる<sup>ニテ</sup>る<sup>ハ</sup>し<sup>ハ</sup>ら<sup>バ</sup>い<sup>ハ</sup>ら<sup>レ</sup>ど<sup>モ</sup>道<sup>ニテ</sup>の<sup>ノ</sup>な<sup>と</sup>と<sup>も</sup>る<sup>る</sup>な<sup>ら</sup>ば<sup>モ</sup>  
 あ<sup>ら</sup>ま<sup>な</sup>は<sup>た</sup>よ<sup>う</sup>た<sup>ら</sup>ひ<sup>て</sup>法<sup>よ</sup>う<sup>な</sup>ら<sup>ば</sup>よ<sup>し</sup>と<sup>も</sup>る<sup>る</sup>な<sup>ら</sup>ば<sup>モ</sup>  
 免<sup>カ</sup>れ<sup>バ</sup>の<sup>ノ</sup>え<sup>ら</sup>う<sup>ん</sup>之<sup>の</sup>階<sup>階</sup>ハ<sup>ハ</sup>長<sup>キ</sup>丸<sup>ニ</sup>以<sup>テ</sup>後<sup>の</sup>階<sup>階</sup>と<sup>も</sup>  
 能<sup>ハ</sup>階<sup>と</sup>い<sup>ふ</sup>と<sup>も</sup>る<sup>る</sup>な<sup>ら</sup>ば<sup>モ</sup>代<sup>の</sup>能<sup>ハ</sup>階<sup>と</sup>て<sup>ハ</sup>大<sup>虚</sup>より<sup>千</sup>  
 万<sup>三</sup>化<sup>シ</sup>て<sup>解</sup>用<sup>一</sup>波<sup>の</sup>法<sup>を</sup>法<sup>と</sup>して<sup>も</sup>つ<sup>て</sup>も<sup>も</sup>連<sup>ニ</sup>  
 と<sup>ハ</sup>る<sup>コト</sup>あり<sup>半</sup>あり<sup>連</sup>階<sup>階</sup>ハ<sup>ハ</sup>長<sup>丸</sup>九<sup>連</sup>歌<sup>の</sup>式<sup>を</sup>  
 う<sup>り</sup>用<sup>ハ</sup>ふ<sup>ら</sup>る<sup>な</sup>ら<sup>ば</sup>解<sup>の</sup>自<sup>然</sup>の<sup>法</sup>式<sup>と</sup>ハ<sup>ハ</sup>る<sup>コト</sup>  
 是<sup>時</sup>ハ<sup>ハ</sup>長<sup>丸</sup>九<sup>連</sup>歌<sup>所</sup>な<sup>ら</sup>ば<sup>ハ</sup>連<sup>多</sup>の<sup>式</sup>を<sup>用</sup>ふ<sup>ら</sup>る<sup>コト</sup>  
 時<sup>難</sup>ら<sup>ま</sup>る<sup>と</sup>自<sup>然</sup>の<sup>式</sup>を<sup>用</sup>ふ<sup>ら</sup>る<sup>コト</sup>を<sup>後</sup>人<sup>ハ</sup>  
 階<sup>ハ</sup>連<sup>歌</sup>の<sup>奴</sup>僕<sup>の</sup>や<sup>う</sup>ふ<sup>ら</sup>る<sup>ハ</sup>大<sup>なる</sup>ま<sup>の</sup>う<sup>ら</sup>る<sup>ハ</sup>

古<sup>き</sup>と<sup>も</sup>る<sup>る</sup>な<sup>ら</sup>ば<sup>モ</sup>一<sup>ハ</sup>層<sup>の</sup>の<sup>も</sup>う<sup>の</sup>の<sup>言</sup>法<sup>と</sup>も<sup>う</sup>の<sup>同</sup>  
 ち<sup>は</sup>天地<sup>人</sup>の<sup>大</sup>極<sup>な</sup>あり<sup>て</sup>る<sup>こ</sup>の<sup>心</sup>  
 きて<sup>て</sup>る<sup>こ</sup>の<sup>心</sup>  
 法<sup>の</sup>よ<sup>う</sup>な<sup>ら</sup>ば<sup>モ</sup>け<sup>レ</sup>た<sup>ら</sup>ば<sup>モ</sup>の<sup>な</sup>ら<sup>ば</sup>あり<sup>し</sup>海<sup>は</sup>も<sup>も</sup>  
 あ<sup>ら</sup>ま<sup>な</sup>は<sup>た</sup>よ<sup>う</sup>た<sup>ら</sup>ひ<sup>て</sup>法<sup>よ</sup>う<sup>な</sup>ら<sup>ば</sup>よ<sup>し</sup>と<sup>も</sup>る<sup>る</sup>な<sup>ら</sup>ば<sup>モ</sup>  
 免<sup>カ</sup>れ<sup>バ</sup>の<sup>ノ</sup>え<sup>ら</sup>う<sup>ん</sup>之<sup>の</sup>階<sup>階</sup>ハ<sup>ハ</sup>長<sup>キ</sup>丸<sup>ニ</sup>以<sup>テ</sup>後<sup>の</sup>階<sup>階</sup>と<sup>も</sup>  
 能<sup>ハ</sup>階<sup>と</sup>い<sup>ふ</sup>と<sup>も</sup>る<sup>る</sup>な<sup>ら</sup>ば<sup>モ</sup>代<sup>の</sup>能<sup>ハ</sup>階<sup>と</sup>て<sup>ハ</sup>大<sup>虚</sup>より<sup>千</sup>  
 万<sup>三</sup>化<sup>シ</sup>て<sup>解</sup>用<sup>一</sup>波<sup>の</sup>法<sup>を</sup>法<sup>と</sup>して<sup>も</sup>つ<sup>て</sup>も<sup>も</sup>連<sup>ニ</sup>  
 と<sup>ハ</sup>る<sup>コト</sup>あり<sup>半</sup>あり<sup>連</sup>階<sup>階</sup>ハ<sup>ハ</sup>長<sup>丸</sup>九<sup>連</sup>歌<sup>の</sup>式<sup>を</sup>  
 う<sup>り</sup>用<sup>ハ</sup>ふ<sup>ら</sup>る<sup>な</sup>ら<sup>ば</sup>解<sup>の</sup>自<sup>然</sup>の<sup>法</sup>式<sup>と</sup>ハ<sup>ハ</sup>る<sup>コト</sup>  
 是<sup>時</sup>ハ<sup>ハ</sup>長<sup>丸</sup>九<sup>連</sup>歌<sup>所</sup>な<sup>ら</sup>ば<sup>ハ</sup>連<sup>多</sup>の<sup>式</sup>を<sup>用</sup>ふ<sup>ら</sup>る<sup>コト</sup>  
 時<sup>難</sup>ら<sup>ま</sup>る<sup>と</sup>自<sup>然</sup>の<sup>式</sup>を<sup>用</sup>ふ<sup>ら</sup>る<sup>コト</sup>を<sup>後</sup>人<sup>ハ</sup>  
 階<sup>ハ</sup>連<sup>歌</sup>の<sup>奴</sup>僕<sup>の</sup>や<sup>う</sup>ふ<sup>ら</sup>る<sup>ハ</sup>大<sup>なる</sup>ま<sup>の</sup>う<sup>ら</sup>る<sup>ハ</sup>

さん切字のこゝに連<sup>レ</sup>継<sup>レ</sup>いふつゝ秘<sup>レ</sup>き<sup>レ</sup>筆<sup>レ</sup>まぬ<sup>レ</sup>み  
 づう<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>ふ<sup>レ</sup>ゝ<sup>レ</sup>に<sup>レ</sup>切<sup>レ</sup>字<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>入<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>に<sup>レ</sup>か<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>  
 づ<sup>レ</sup>ハ<sup>レ</sup>若<sup>レ</sup>者<sup>レ</sup>ハ<sup>レ</sup>氣<sup>レ</sup>なる<sup>レ</sup>こ<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>に<sup>レ</sup>切<sup>レ</sup>字<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>  
 る<sup>レ</sup>こ<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>に<sup>レ</sup>切<sup>レ</sup>字<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>に<sup>レ</sup>切<sup>レ</sup>字<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>  
 して<sup>レ</sup>切<sup>レ</sup>字<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>に<sup>レ</sup>切<sup>レ</sup>字<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>に<sup>レ</sup>切<sup>レ</sup>字<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>  
 此<sup>レ</sup>字<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>に<sup>レ</sup>切<sup>レ</sup>字<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>に<sup>レ</sup>切<sup>レ</sup>字<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>  
 三ハ入ても切字のま<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>に<sup>レ</sup>切<sup>レ</sup>字<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>  
 小<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>や<sup>レ</sup>ハ<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>ぬ<sup>レ</sup>に<sup>レ</sup>切<sup>レ</sup>字<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>  
 三<sup>レ</sup>切<sup>レ</sup>切<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>に<sup>レ</sup>切<sup>レ</sup>字<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>に<sup>レ</sup>切<sup>レ</sup>字<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>

小<sup>レ</sup>建<sup>レ</sup>よ<sup>レ</sup>つ<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>に<sup>レ</sup>切<sup>レ</sup>字<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>  
 も<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>れ<sup>レ</sup>ハ<sup>レ</sup>皆<sup>レ</sup>人<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>じ<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>きた<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>ぬ<sup>レ</sup>傳<sup>レ</sup>言<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>  
 翁<sup>レ</sup>日<sup>レ</sup>和<sup>レ</sup>歌<sup>レ</sup>ハ<sup>レ</sup>三<sup>レ</sup>十<sup>レ</sup>一<sup>レ</sup>字<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>に<sup>レ</sup>切<sup>レ</sup>字<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>  
 小<sup>レ</sup>用<sup>レ</sup>する<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>に<sup>レ</sup>切<sup>レ</sup>字<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>に<sup>レ</sup>切<sup>レ</sup>字<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>  
 附<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>に<sup>レ</sup>切<sup>レ</sup>字<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>に<sup>レ</sup>切<sup>レ</sup>字<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>  
 思<sup>レ</sup>日<sup>レ</sup>翁<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>能<sup>レ</sup>潜<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>に<sup>レ</sup>切<sup>レ</sup>字<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>  
 一<sup>レ</sup>切<sup>レ</sup>字<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>に<sup>レ</sup>切<sup>レ</sup>字<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>に<sup>レ</sup>切<sup>レ</sup>字<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>  
 扱<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>に<sup>レ</sup>切<sup>レ</sup>字<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>に<sup>レ</sup>切<sup>レ</sup>字<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>  
 去<sup>レ</sup>切<sup>レ</sup>字<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>に<sup>レ</sup>切<sup>レ</sup>字<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>に<sup>レ</sup>切<sup>レ</sup>字<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>

きれたる<sup>セニ</sup>苦<sup>カク</sup>忍<sup>ニ</sup>不二の大<sup>タイ</sup>虚<sup>キョ</sup>の<sup>ニ</sup>らめと<sup>ニ</sup>これ<sup>ニ</sup>別人<sup>ニ</sup>の<sup>ニ</sup>中<sup>ニ</sup>に  
 それを<sup>モ</sup>志<sup>ス</sup>ると<sup>モ</sup>き<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>ひ<sup>ハ</sup>の<sup>ニ</sup>一<sup>ニ</sup>の<sup>ニ</sup>き<sup>ハ</sup>う<sup>ハ</sup>れ<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>物<sup>ノ</sup>の<sup>ニ</sup>あ<sup>リ</sup>ま<sup>ハ</sup>慈<sup>ミ</sup>た<sup>ス</sup>く<sup>ハ</sup>  
 る<sup>ハ</sup>

或人<sup>イ</sup>問<sup>ヒ</sup>曰<sup>ク</sup>て<sup>ハ</sup>あ<sup>リ</sup>ま<sup>ハ</sup>を<sup>モ</sup>と<sup>シ</sup>つ<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>す<sup>ハ</sup>に<sup>ハ</sup>あ<sup>リ</sup>ま<sup>ハ</sup>を<sup>モ</sup>来<sup>リ</sup>て<sup>ハ</sup>あ<sup>リ</sup>ま<sup>ハ</sup>を<sup>モ</sup>  
 は<sup>ハ</sup>天下<sup>ニ</sup>一<sup>ニ</sup>の<sup>ニ</sup>て<sup>ハ</sup>あ<sup>リ</sup>ま<sup>ハ</sup>を<sup>モ</sup>と<sup>シ</sup>つ<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>す<sup>ハ</sup>に<sup>ハ</sup>あ<sup>リ</sup>ま<sup>ハ</sup>を<sup>モ</sup>志<sup>ス</sup>れ<sup>ハ</sup>る<sup>ハ</sup>事<sup>ハ</sup>あ<sup>リ</sup>と<sup>ス</sup>  
 け<sup>ハ</sup>ん<sup>ハ</sup>の<sup>ニ</sup>あ<sup>リ</sup>ま<sup>ハ</sup>を<sup>モ</sup>と<sup>シ</sup>つ<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>す<sup>ハ</sup>に<sup>ハ</sup>あ<sup>リ</sup>ま<sup>ハ</sup>を<sup>モ</sup>志<sup>ス</sup>れ<sup>ハ</sup>る<sup>ハ</sup>事<sup>ハ</sup>あ<sup>リ</sup>と<sup>ス</sup>  
 て<sup>ハ</sup>あ<sup>リ</sup>ま<sup>ハ</sup>を<sup>モ</sup>と<sup>シ</sup>つ<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>す<sup>ハ</sup>に<sup>ハ</sup>あ<sup>リ</sup>ま<sup>ハ</sup>を<sup>モ</sup>志<sup>ス</sup>れ<sup>ハ</sup>る<sup>ハ</sup>事<sup>ハ</sup>あ<sup>リ</sup>と<sup>ス</sup>  
 に<sup>ハ</sup>あ<sup>リ</sup>ま<sup>ハ</sup>を<sup>モ</sup>と<sup>シ</sup>つ<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>す<sup>ハ</sup>に<sup>ハ</sup>あ<sup>リ</sup>ま<sup>ハ</sup>を<sup>モ</sup>志<sup>ス</sup>れ<sup>ハ</sup>る<sup>ハ</sup>事<sup>ハ</sup>あ<sup>リ</sup>と<sup>ス</sup>  
 淨<sup>ニ</sup>傳<sup>ニ</sup>授<sup>ニ</sup>の<sup>ニ</sup>人<sup>ニ</sup>ま<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>ま<sup>ハ</sup>し<sup>ハ</sup>ば<sup>ハ</sup>さ<sup>ハ</sup>れ<sup>ハ</sup>る<sup>ハ</sup>や<sup>ハ</sup>き<sup>ハ</sup>う<sup>ハ</sup>の<sup>ニ</sup>神<sup>ニ</sup>て<sup>ハ</sup>人<sup>ノ</sup>  
 衆<sup>ヲ</sup>を<sup>モ</sup>と<sup>シ</sup>つ<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>す<sup>ハ</sup>に<sup>ハ</sup>あ<sup>リ</sup>ま<sup>ハ</sup>を<sup>モ</sup>志<sup>ス</sup>れ<sup>ハ</sup>る<sup>ハ</sup>事<sup>ハ</sup>あ<sup>リ</sup>と<sup>ス</sup>  
 紹<sup>ス</sup>

巴<sup>ハ</sup>負<sup>タイ</sup>徳<sup>トク</sup>芭<sup>ハ</sup>蕉<sup>トク</sup>翁<sup>ウ</sup>ハ<sup>ハ</sup>淨<sup>ニ</sup>傳<sup>ニ</sup>授<sup>ニ</sup>あり<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>人<sup>ノ</sup>と<sup>シ</sup>て<sup>ハ</sup>あ<sup>リ</sup>ま<sup>ハ</sup>を<sup>モ</sup>  
 の<sup>ニ</sup>あ<sup>リ</sup>ま<sup>ハ</sup>を<sup>モ</sup>と<sup>シ</sup>つ<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>す<sup>ハ</sup>に<sup>ハ</sup>あ<sup>リ</sup>ま<sup>ハ</sup>を<sup>モ</sup>志<sup>ス</sup>れ<sup>ハ</sup>る<sup>ハ</sup>事<sup>ハ</sup>あ<sup>リ</sup>と<sup>ス</sup>  
 あ<sup>リ</sup>ま<sup>ハ</sup>を<sup>モ</sup>と<sup>シ</sup>つ<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>す<sup>ハ</sup>に<sup>ハ</sup>あ<sup>リ</sup>ま<sup>ハ</sup>を<sup>モ</sup>志<sup>ス</sup>れ<sup>ハ</sup>る<sup>ハ</sup>事<sup>ハ</sup>あ<sup>リ</sup>と<sup>ス</sup>  
 或<sup>ハ</sup>人<sup>ノ</sup>其<sup>ノ</sup>角<sup>ノ</sup>同<sup>ノ</sup>曰<sup>ク</sup>翁<sup>ノ</sup>の<sup>ニ</sup>幸<sup>ニ</sup>時<sup>ニ</sup>の<sup>ニ</sup>白<sup>ニ</sup>み<sup>ハ</sup>切<sup>ニ</sup>字<sup>ニ</sup>が<sup>ハ</sup>き<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>れ<sup>ハ</sup>何<sup>ノ</sup>  
 も<sup>ハ</sup>角<sup>ノ</sup>曰<sup>ク</sup>我<sup>ノ</sup>翁<sup>ノ</sup>ハ<sup>ハ</sup>何<sup>ノ</sup>の<sup>ニ</sup>白<sup>ニ</sup>み<sup>ハ</sup>切<sup>ニ</sup>字<sup>ニ</sup>が<sup>ハ</sup>き<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>れ<sup>ハ</sup>何<sup>ノ</sup>  
 浅<sup>ニ</sup>深<sup>ニ</sup>を<sup>モ</sup>と<sup>シ</sup>つ<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>す<sup>ハ</sup>に<sup>ハ</sup>あ<sup>リ</sup>ま<sup>ハ</sup>を<sup>モ</sup>志<sup>ス</sup>れ<sup>ハ</sup>る<sup>ハ</sup>事<sup>ハ</sup>あ<sup>リ</sup>と<sup>ス</sup>  
 素<sup>ニ</sup>を<sup>モ</sup>と<sup>シ</sup>つ<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>す<sup>ハ</sup>に<sup>ハ</sup>あ<sup>リ</sup>ま<sup>ハ</sup>を<sup>モ</sup>志<sup>ス</sup>れ<sup>ハ</sup>る<sup>ハ</sup>事<sup>ハ</sup>あ<sup>リ</sup>と<sup>ス</sup>  
 き<sup>ハ</sup>あ<sup>リ</sup>ま<sup>ハ</sup>を<sup>モ</sup>と<sup>シ</sup>つ<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>す<sup>ハ</sup>に<sup>ハ</sup>あ<sup>リ</sup>ま<sup>ハ</sup>を<sup>モ</sup>志<sup>ス</sup>れ<sup>ハ</sup>る<sup>ハ</sup>事<sup>ハ</sup>あ<sup>リ</sup>と<sup>ス</sup>  
 白<sup>ニ</sup>み<sup>ハ</sup>切<sup>ニ</sup>字<sup>ニ</sup>が<sup>ハ</sup>き<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>れ<sup>ハ</sup>何<sup>ノ</sup>  
 愚<sup>ニ</sup>田<sup>ニ</sup>是<sup>ニ</sup>別<sup>ニ</sup>言<sup>ニ</sup>語<sup>ニ</sup>文<sup>ニ</sup>字<sup>ニ</sup>が<sup>ハ</sup>き<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>れ<sup>ハ</sup>何<sup>ノ</sup>  
 禪<sup>ニ</sup>

の俳諧とてよもしくも縁の俳諧とハ柳の縁なきハ天  
 地ありんあふありて地ありん縁なきとてあふありて  
 そらそらふあふありてあふありてあふありてあふありて  
 非とあふありてあふありてあふありてあふありてあふありて  
 いたとてあふありてあふありてあふありてあふありてあふありて  
 ハ縁の縁とてあふありてあふありてあふありてあふありてあふありて  
 人としてあふありてあふありてあふありてあふありてあふありて  
 の申ふありてあふありてあふありてあふありてあふありて  
 ハむとあふありてあふありてあふありてあふありてあふありて  
 かれは是ゆありてあふありてあふありてあふありてあふありて

こゝろの縁の縁とてあふありてあふありてあふありてあふありてあふありて  
 子苦哉狂醉人もやハ蕉門ハ入て心眼をひらき見る  
 づー川我心翁心翁我心とてあふありてあふありてあふありて  
 かり清浄無垢なるは日月のあふありてあふありてあふありて  
 おりろとく味喰う對してあふありてあふありてあふありて  
 皆蕉門の風魂とてあふありてあふありてあふありてあふありて



見悟

池のほとりて 雲の影をうけて  
しづかに 水は流るる

石田梅巖先生

鼻悟

鼻の鼻をきく 心の心を知る

愚

見悟

心佛の心は 心を悟る

目

聞悟

きこひて 心の心を知る

目

目

心は心を知る 心は心を知る

目

俳諧悟影法師前編終



跋

鶏鳴庵東窓あり此人ありて此癖あり  
一はあかたらしき糸のいとねむろあむれをうけらば  
能く俚語をまじへて 心のあるる月ののまをい  
常と夜を呼ぶ 輯録の深切なる事とてい男女  
の相見後よりあはれいぬるものいそ事をいふ  
小むらさきとて道よむはなして心をいふこと  
るものいふとてあはれいぬるものいそ事をいふ  
貫つるものいふとていふ十余年の春秋をいふこと



